

## 平成 29 年度都立看護専門学校推薦入学試験小論文課題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

数年前に患<sup>わずら</sup>った膠原病<sup>こうげんびょう</sup>の治療。その薬の副作用で私は骨粗鬆症<sup>こつそしょうしょう</sup>になりました。胸椎<sup>きょうつゐ</sup>の八番目と九番目が潰れ、とうとう十一番目の骨がなくなってしまいました。それはもうベッドから起き上がれないほどの痛みです。ようやく歩けるようになりましたが、私の身長は以前に比べ十四センチも縮んでしまったのです。いくら老年になったとはいえ、わが身が不自由になるのはつらいことです。重たい荷物を持ってないから、まわりの人に持ってもらうなくてはならない。これまでできていたことができなくなる。そのふがいなさがもどかしくてなりません。

若い頃には、人はたくさんものを持っています。体力はもちろんのこと、気力や美しさも光り輝いている。その溢<sup>あふ</sup>れる力があればこそ、多少の悩みなんか吹き飛ばすこともできる。しかし、その若さは永遠のものではありません。健康な体もやがては病<sup>かか</sup>に罹り、美しかった肌には幾重もの皺<sup>しわ</sup>が刻まれていく。でも、嘆いていても何も変わりはありません。嘆いた分だけよくなるのなら、いくらでも嘆けばいい。しかし悩みというのは、嘆いた分だけ大きくなっていくのです。

悩みは、嫉妬<sup>しつと</sup>に似ていると私は思っています。初めは小さかった悩みも、そこばかり目をやっていると、どんどん雪だるまのように膨<sup>ふく</sup>らんでいく。そして、転がりながら小さな悩みさえもくっつけて、自分ではどうしようもないほどに大きくなっていく。そうなる前に、もう一度客観的に自分自身を眺めてみることです。これまで持っていたものを失う。それは悲しいことです。しかし失ったものばかりを嘆いていても前には進みません。ふがない自分としっかり向き合い、そして仲よく生きていくことです。まわりにはたくさんの方がいます。でも、二十四時間ずっと一緒にいるのは自分だけ。その自分を嫌うことなく大切にしていなければならない。悩みを抱えている自分もまた、いとおしく思うことです。

(※ 課題文中の漢字については、原文を一部修正して使用している。)

出典：渡辺和子著（2012）。「置かれた場所で咲きなさい」 第3章 美しく老いる  
株式会社幻冬舎

(設問)

文章の内容を要約した上で、「老いる」ということについて、あなたの考えを800字程度で述べなさい。